

南山大学外国語学部主催、アジア・太平洋研究センター・東南アジア学会中部例会共催セミナー

「世界史の中のインドネシアを考える」プログラム

従来のインドネシア史研究は、ナショナリズムに重点が置かれていた時代のパラダイムから抜け出せないために、基本的に植民地時代に引かれた国境線を所与のものとして扱い、周辺地域やグローバルな動きとの関連が軽視されてきた。一国的観点を緩和するとともに、従来の地域研究の特徴（その地域の住民の主体性を重視する、現地語資料を基本とする）も生かしつつ、インドネシア史を再考する。古代史から現代史までの研究者が一堂に会して、インドネシア史を通史的に見直すと同時に、新しい知見を獲得する場としたい。

<1 日目>

2014年3月27日（木）13:00—18:00

於 南山大学名古屋キャンパス J棟 1階特別合同研究室（Pルーム）

13:00 開会

13:00—13:10

セミナー趣旨説明：小林寧子（南山大学）

第1セッション

「東南アジア刻文史料から見るインドネシア古代史の再検討（8～10世紀）」

司会：青山亨（東京外国語大学）

13:10—13:15

趣旨説明：青山亨（東京外国語大学）

13:15—13:55

発表1：山崎美保（東京外国語大学大学院生）

「中部ジャワ時代の刻文から見る王の系譜と王権」

13:55—14:35

発表2：川上桂（佛教大学大学院生）

「プレ・アンコール時代の刻文に見られる系譜：ジャワ刻文との比較を中心に（6～8世紀）」

14:40—15:20

討論

コメント：松浦史明（日本学術振興会特別研究員）

第2セッション

「近世から近代へ（1750～1870年）」

司会：弘末雅士（立教大学）

15:30—15:35

趣旨説明：太田淳（広島大学）

15:35—16:15

発表1：小林篤史（京都大学大学院生）

「シンガポールを中心とした東南アジア域内交易の発展（1820年代～1870年）」

16:15—16:55

発表2：太田淳（広島大学）

「インドネシア諸島における貿易構造の変容と西カリマンタン社会（1750～1870年）」

17:00—17:40

討論

コメント：鈴木英明（東京外国語大学研究員）

18:00—懇親会

南山大学名古屋キャンパスへのアクセス

<http://www.nanzan-u.ac.jp/Information/access.html#01>

名古屋キャンパスマップ

http://www.nanzan-u.ac.jp/Information/navi/nagoya_main.html



「世界史の中のインドネシアを考える」プログラム

<2日目>

2014年3月28日（金）9:30—17:00

於 南山大学名古屋キャンパスJ棟1階特別合同研究室（Pルーム）

第3セッション

「ムスリムと近代（1920～30年代）」

司会：森山幹弘（南山大学）

9:30—9:35

趣旨説明：小林寧子（南山大学）

9:35—10:15

発表1：小林寧子（南山大学）

「イスラーム定期刊行物から見た中東：ナショナリズムとイスラーム」

10:15—10:55

発表2：山口元樹（東洋文庫研究員）

「インドネシア・ムスリム社会とアラブ地域：エジプトの定期刊行物『ファトフ』を事例として」

10:55—11:35

発表3：服部美奈（名古屋大学）

「イスラームと健康をめぐる議論」

11:40—12:20

討論

コメント：池田美佐子（名古屋商科大学）

第4セッション

「1965年9月30日事件 —その衝撃と対外関係—」

司会：後藤乾一（早稲田大学名誉教授）

13:30—13:35

趣旨説明：後藤乾一（早稲田大学名誉教授）

13:35—14:05

発表1：高地薫（愛知県立大学研究員）

「9月30日事件と新体制：歴史とその語り」

14:05—14:35

発表2：山崎功（佐賀大学）

「資源ナショナリズムからみた9月30日事件と新体制」

14:35—15:05

発表3：松村智雄（東京大学研究員）

「9月30日事件のインドネシア国内における波及経緯：西カリマンタンの事例を中心に」

15:05—15:35

発表4：馬場公彦（岩波書店編集部）

「華僑社会における9月30日事件の衝撃——インドネシア・中国・台湾」

15:40—16:20

討論

コメント：宮城大蔵（上智大学）

16:30—17:00

総合コメント1：弘末雅士（立教大学）

総合コメント2：青山亨（東京外国語大学）

17:00 閉会

